

～小浜北RCのTSコメント～2015年6月13日実施

2015年6月19日 吉田 稔

★3mライン

3mラインは、ライン周辺の目視観察での総被度は10%でありキクメイシ類、ハナヤサイサンゴ類、アナサンゴモドキ類、ソフトコーラル類などが中心で、ミドリイシ類はコリンボース状、枝状のものが少し見られる程度である。底質調査のハードコーラル占有率(HC)の結果は24.4%と前年12.5%と比較して11.9%増加した。直径5cm以下のミドリイシ類の新規加入群体は、1㎡あたり1群体程度見られた。

魚類は前年と比較してチョウチョウウオ類は少ないままであったが、ブダイ類が多くなっていた。無脊椎でオニヒトデは確認されなかったが非常に小さい食痕が2～3個見られた。サンゴ類の病気も見られなかった。

★6mライン

6mラインはライン周辺の目視によるサンゴ被度は10%であり3mライン周辺より被度はやや高いように見えた。サンゴ類はキクメイシ類、ハナヤサイサンゴ類、オオトゲサンゴ類、アナサンゴモドキ類などが中心でミドリイシ類はあまり見られなかった。直径5cm以下のミドリイシ類の新規加入群体は、1㎡あたり1～2群体見られた。底質調査のハードコーラル占有率(HC)の結果は19.4%と前年18.8%と比較して0.6%とほんの少し増加していた。

魚類は昨年と比較してチョウチョウウオ類、ブダイ類の出現数が多くなっている。無脊椎ではオニヒトデは確認されなかった。サンゴ食貝類、サンゴ類の病気も見られなかった。

◎総評

3年前に小浜北RCポイントを含む石西礁湖の北礁は、オニヒトデの大発生が見られたが小浜北RCポイントではサンゴ類を完全に食べつくすというような状況にはならなかった。キクメイシ類、ハナヤサイサンゴ類などを中心に比較的多くサンゴ類が残っていて、ミドリイシ類も少し残っている。また3年前では見られなかった直径5cm以下のミドリイシ類の新規加入も全体的にみられるようになり今後の回復が期待できる。

以上